

令和5年度 幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園

学校関係者評価委員会 報告書

学校関係者評価委員

松山市三番町 民生委員	中村 やよい
学校法人 愛媛幼稚園評議員 一級建築士	幸田 忠治
幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 PTA 役員会会長	村上 礼奈
幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 PTA 役員会副会長	小山 菜美
幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 園長	奥田 正子
幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 副園長	森 陽子
学校法人 愛媛幼稚園 理事長	奥田 一品

第1回 学校関係者評価委員会

日時 令和5年12月

方法 新型コロナウイルス感染対策により、多人数での会議をひかえ、メールおよび書面により情報交換し、意見を集約した。

参加委員 7名中7名

議題 自己点検・自己評価に使用するアンケート項目の検討・承認

自己点検・自己評価に使用するアンケート項目について各委員に検討をお願いした。委員全員からアンケート項目の承認が得られた。

第2回 学校評価委員会

日時 令和6年3月

方法 新型コロナウイルス感染予防対策として、事前に渡された資料に基づいて、書面により意見を表明した。

参加委員 7名中7名

議題 自己点検・自己評価の結果について及び他のご意見

- ・各自が、しっかりと教育・保育の方針、対応等自己評価していて、概ね良いと思う。しかし、チェック項目に「わからない」の回答が多い。保育教諭としての向上のために、いろんな事にチャレンジして、専門知識や技能を高めてほしい。
- ・質問内容によっては「いいえ」の答えがない方が良かったものがあつた。しかし、1人の先生が見る子ども的人数が多い中でもこまやかな保育をしていただき、多くの事を考えてくださっていてありがたい。
- ・いつも子どもたちに寄り添って、対応・指導いただき感謝している。
- ・新人保育教諭への研修期間がよりあると「知りたい・学びたい」をもっと伸ばすことになり、色々と良いことがあると思う。より良い園づくりを応援しています。

令和5年度 自己評価結果報告書

幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園

1. 本園の教育目標

本園は、園児の健全な成長・発達をはかることを目的としている。行事・遊びを通じた様々な体験、音楽、体育、自由画などの情操教育、自然と触れ合う楽しい保育、適切な時期に適切な教育を行うことにより園児の好奇心を導き出し、園児の関心を満たし、保育教諭や友達との関わりの中から、社会性を学び、生きるための知能や感性を獲得していくことが一番と考える。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・保育の質の向上をはかる。
- ・衛生管理を徹底していく。
- ・安全防災管理に努める。

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

各自がしっかりと教育・保育の方針、対応等自己評価していることは、概ね良いとの評価をいただいた。

しかし、チェックリストに「わからない」「いいえ」の回答が多い。保育教諭としての向上のために、いろいろな事にチャレンジして、専門知識や技能を高めてほしい。

また、新人保育教諭への研修期間がよりあると、「知りたい・学びたい」をもっと伸ばすことになり、色々と良いのではないかと思う。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員の資質向上・共通理解	少しずつ研修等への参加が増えてきたが、今後もより、研修への積極的な参加に努め、保育・教育の質の向上を図る。 勤務体系による理解・認識の差が大きくなっている事が分かったので、話し合いを多く設け、共通理解を図りたい。
安全管理	地震、火事、風水害等避難訓練を行い、安全管理に意識を高める。全教職員が、意識強化することに今後も務める。

自己点検・自己評価のためのチェックリスト

令和5年度

幼保連携型認定こども園 愛媛幼稚園 : 回答者36名

I 教育・保育計画・方針について

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
1	園の教育理念や、教育方針を理解している。	36			
2	園の教育方針に共感している。	36			
3	園の目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる。	36			
4	指導計画は教育要領・教育課程・乳幼児の実態などをもとに考えて作成している。	30	1	5	
5	幼児が主体的に活動できるような環境構成をしている。	35	1		
6	季節、行事を通して、乳幼児の発達に即した経験ができるように、計画をたてている。	34	1	1	
7	乳幼児が安全で心地よく過ごすことができる環境を整えている。	36			

II 保育の在り方・乳幼児への対応

8	一人ひとりの乳幼児をよく観察するようにこころがけている。	36			
9	子どもをよく理解し、一人ひとりの性格や、特性などに配慮しながら指導している。	36			
10	基本的な生活習慣や、生理現象に関しては、一人ひとりの乳幼児の状況に応じて対応している。	36			
11	乳幼児一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている。	36			
12	乳幼児のことについて、保育教諭間での話し合いを持ち情報を共有している。	35		1	

III 保育教諭としての資質や能力・適正

13	保育教諭としての専門知識や技能を身につけている。	33		3	
14	乳幼児や保護者との対応には公平を欠かさないようにしている。	36			
15	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	36			
16	生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。	35		1	

IV 保護者への対応

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
17	個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って伝えあっている。	35	1		

18	保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針にしたがっている。	35		1	
19	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長・副園長に連絡、報告、相談している。	35		1	
20	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については容易に受けたり、断ったり、無視しないで園長や副園長、主幹保育教諭に報告や相談をしている。	35		1	
21	園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや、会話を心がけている。	36			

V 研修と研究

22	研修会や研究会に参加する際には、自分なりの目標をもって臨み、学習したものを報告書にまとめ提出している。	27	1	4	4
23	自分の保育については、自己課題をもって計画と反省をおこなっている。	36			
24	研修に参加し、学習を通して、自身の保育に役立てている。	27	1	3	5
25	絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	34	1		1
26	アレルギー、自立の遅れなどが見られた場合、個々に応じた配慮や対応をおこなっている。	36			
27	趣味、人とのかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている。	35		1	

VI 食育・保健・環境

28	食事のマナーを知り、守って楽しく食事ができる環境作りを行っている。	36			
29	いろいろな食材に興味・関心を持ち、苦手な食べ物も食べられるように工夫している。	35		1	
30	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している。	36			

【成果】

- ・「報告・連絡・相談」をすることで、信頼関係も得られると思う。個々の発達状況も違うので、保育教諭同士で話し合い共有している。
- ・保育教諭同士での情報や伝達の共有を忘れず努め、スムーズに保育が出来た。
- ・園児の成長を日々感じながら、楽しく保育をすることが出来た。一人ひとり個性があり、成長のスピードも違うが個々に合った保育を心掛けてきた。
- ・たくさんの園児と関わってきたが、保育に正解はないと実感している。学年・月齢・性格・発達・家庭環境等、一人ひとり違っていて個々に応じた関わりが大事だと思う。
- ・保育のあり方・個々の様子・保護者への対応など、保育教諭間での話し合いを通し、情報の共有をしっかりと行うことが出来た。
- ・たくさん勉強させて頂き、とても良い一年だった。
- ・日々、子どもと深くかかわり、子どもの目線に立った保育になるよう心掛けている。
- ・一人ひとりの性格や個性を理解して関わるよう努めている。
- ・子ども一人ひとりの性格や気持ちに寄り添っていくよう努めてきた。
- ・園児一人ひとりとの関わりを丁寧に行うことができた。
- ・個々に応じた関わり方や配慮などがしっかりできたように思う。
- ・職員との連携が苦手なため、とれるよう心掛け、少しずつ積極的に連携できるようになってきた。
- ・野菜が食べられなかった園児が、個々に合わせて対応し励ましていくと少しずつ食べられるようになったり、初めは泣いて登園していた園児が、登園を楽しみにしたりする園児が増えてきた。
- ・子ども達が安心できる環境や雰囲気作りに努めた。
- ・園児一人ひとりの特徴や思い・成長などを考慮して保育できるよう努めている。
- ・園児・保護者と信頼関係を築けるように、会話したことを覚えたり、エピソードを把握したりするなどこれからも続けたい。
- ・担任業務は、過去の経験等活かしながら、落ち着いて取り組むことが出来た。
- ・一人ひとりの成長に合わせて、日々の成長を見逃さないよう気を付ける事で、今何を求めているのか、どのような関わりが成長につながるかを見つけ出し、探りながら保育した。成長に繋げることが出来ている。
- ・悩んだ時は、先輩にアドバイスをもらったりして、少しずつ解決に向かえた。また、保育教諭間での話をよくして、楽しく保育が進められた。
- ・外部機関と繋いだことで、新しい発見があり、勉強になった。
- ・家庭と同じように、子どもが安心して過ごす事ができる環境づくりを心掛け、保育を行うことが出来た。

【課題】

- ・ 今後も異年齢でのかかわりや、遊び方に工夫して保育が行えるようにしたい。
- ・ 言葉掛けなど成功したり、しなかったりの日々だが、これからも、いろいろな言葉掛けや配慮をしながら、一人ひとりの成長の手助けが出来たらと思う。
- ・ 同じ園児でも、その時々で、違うので、悩むこともあったが、個々が少しでも成長できるように試行錯誤しながら、時と場に応じた保育が出来るようにしていきたい。
- ・ 日々、状況が変化していくため、情報の共有・相談・話し合い等が続けていきたい。
- ・ 緊張と不安で自信を持つことが出来ていないことがあるので、自信を持って取り組むことが出来るよう、普段から人とのかかわりを大切にしていきたい。
- ・ 日々の姿が手本になることをしっかり自覚し、気を付けていきたいと感じる。
今後も、一人ひとりの様子をしっかり観察し、関わっていきたい。
- ・ これからも、園児に安心をあたえられる温かい保育が出来るようにしたい。
- ・ 子どもの様子を保護者の気持ちになり、伝えていく事も大切に心掛けていこうと思う。
- ・ 自分から進んで行動することがあまり出来なかったように思うので、今何をすべきか考えて素早く動くことが出来るようにしたい。
- ・ 保護者との相談を密にしていきたい。
- ・ 無理のある保育にならないよう段階を踏んで進められる視野を持ち、保育や保護者対応後輩育成などしていきたい。
- ・ クラスの子どもが変われば、配慮の仕方も変わり、うまく対応しきれなかったと感じるところもあるが、全体を進めながら、個々への配慮の仕方について、沢山考えてきた。その分、信頼関係も深まってきたので、次につなげたい。
- ・ 保護者との信頼関係を築けるよう、共感・傾聴する姿勢を大切にし、思いやりを持った対応を大切にしたい。
- ・ 一人ひとりが、心地よく過ごせるよう、その時々への対応があっているか考えながら、関わり、努力していきたい。
- ・ プライベートを含め、充実した学びが得られるよう尽力したい。
- ・ 子どもたち一人ひとりが、自己肯定感を持てる経験や環境を作っていきたい。
- ・ 外部機関と繋がり、専門家の方と話すことで、視野を広げるだけでなく、改めて長い目で見ていく大切さを学んだ。
- ・ クラス全体を動かすために活動を先に考え行動することがまだ難しいので、今後、経験を重ね、身につけていきたい。

第1回 学校関係者評価委員会

日 時	令和5年6月14日(水)
方 法	書面により情報交換し、意見を集約した。
参加委員	7名中7名
議 題	自己点検・自己評価に使用するアンケートについて各委員に検討をお願いした。 委員全員からアンケート項目の承認が得られた。

第2回 学校関係者評価委員会 【書面開催】

1. 実施日 令和6年2月26日(月)
2. 評価者 学校関係者評価委員
- 星岡町前町内会長 池田 秀夫
- 学校法人 愛媛幼稚園評議員 一級建築士 幸田 忠治
- 幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 PTA 会長 工藤 朝美
- 幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 PTA 役員会副会長 安本 ひとみ
- 幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 園長 奥田 正子
- 幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 副園長 奥野 かおり
- 学校法人 愛媛幼稚園 理事長 奥田 一品

3. 議題 自己点検・自己評価の結果について及び他のご意見 【書面回答】

星岡町前町内会長 池田 秀夫様

令和5年度愛媛星岡幼稚園 評価意見

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園は、新幼稚園教育要領により幼児教育を進めており、チェックリストの6項目を揚げ成長と課題をわかりやすく表現されているので理解しやすくて良い。子ども1人1人をよく観察し、幼児教育を推進する中で、未来を考えて「生きる力」を養うことに力を入れている。特色ある星岡幼稚園作りとして、特に「音楽」「英語」教育に特に力を入れてはどうか。

以下取り組みが良い

- 1.気づいたことや出来事などを工夫しながら表現する力を養う。
- 2.多様な経験を通して感じたり、考えたりする中で自らが、何ができるか知ることを養う。
- 3.学びに向かう力、人間性などを習得した知識で、技能思考力などを発揮するかを考え、より良い生活を送るために必要な事柄を探求する。
- 4.小学校への接続を見据えた園児たちとの関わりが大切であること等を踏まえた取り組みをされている。
- 5.運動会、お遊戯会、遠足、演奏会、お誕生会等イベントを盛大に開催され、子供たちや父兄から大変喜ばれている。

口コミ評価 五つ星

- 元気に育つ幼稚園、子どもを尊重してくれる幼稚園
- 音楽等いろいろなことに挑戦させてくれる幼稚園
- 子どもが成長できる行事が沢山ある幼稚園
- 遊びや楽しいイベントが沢山ある幼稚園

今後の課題 いろいろな角度から良く話し合い実行すること

出来事の反省と共有の仕方をよく話し合う

日常園内でのクレームの対応

いじめや虐待の対応

先生の力量をいかに伸ばすか

学校法人 愛媛幼稚園評議員、一級建築士 幸田 忠治様

自己点検・自己評価について「成果と課題」も閲覧しました。

各自がしっかりと教育・保育の方針、対応等自己評価して 大変良いと思います。

尚、保育教諭としての専門技能を積極的に研修等に参加し、より高めてほしいと思います。

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 PTA 会長 工藤 朝美様

日頃から子ども達のためにありがとうございます。

人材不足、低賃金等問題の多い中、楽しく安心して園生活を送れる様に個々に合わせた支援をしていただき感謝でいっぱいです。

また、子ども達だけではなく、保護者ともコミュニケーションをとっていただきありがとうございます。

大変なお仕事だと思います。感謝してもしきれません。

まだまだ感染症が流行っていますが、先生方もお身体にはお気を付けて下さい。

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園 PTA 副会長 安本 ひとみ様

先生方にはいつもお世話になっております。

私が1人目の子ども（現在小3）の時から安心して園に通わせていただけているのは、園の教育理念や方針がきちんと先生方に伝わっていて、先生1人1人が子ども達や保護者に寄り添おうとする素晴らしい努力があったからこそだったんだと納得しました。愛情をもって接してくださりありがとうございます。

「健やかで園が楽しい」と子どもに感じてもらう、シンプルだけどこれがいかに大変か...

成果と課題を拝見し、ますます感じ本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも「愛媛星岡幼稚園は本当に良い幼稚園だよ！」と周りに教えていきます。

令和5年度 自己評価結果報告書

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園

1. 本園の教育目標

【心身共に健康で、明るく、思いやりを持って友達とともに行動できる子どもを育てる。】

本園は、園児の健全な成長・発達をはかることを目的としている。行事、遊びを通じた様々な体験音楽、体育、自由画などの情操教育、自然と触れ合う楽しい保育、適切な時期に適切な5領域教育としつけを行うことにより園児の好奇心を導き出し、園児の関心を満たし、保育教諭や友達との関わりの中から、社会性を学び、生きるための知能や感性を獲得して行くことが一番と考える。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

○保育の計画性

・計画、実施、評価、改善を日常的に行ない保育の質の向上に努める。

○職員間での連携及び情報の共有

・園児が健全なる成長を遂げることができるよう、保育教諭間で連携をとり、日々の安心・安全に繋げていく。

○安全管理の徹底

・多様な場面において適切な対応がとれるよう、正しい知識を身に付けていく。

3. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己点検・自己評価の実施は、保育教諭が自身の保育・教育を振り返り、大きな成果と課題に繋がっていると感じる。昨年度より、取り組むべき課題として掲げていた「保育・教育内容の充実」については、安心して園生活を送るための感染対策、防災・防犯意識の向上、行事等の見直しを図ること（カリキュラムマネジメント）に努めた1年となった。

自粛していた行事等の再開により園児が楽しんで、積極的に参加している姿は、私達にとって大きな刺激と喜びに繋がっていった。今後も、園児一人一人に寄り添った保育に努めていきたい。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み
環境の工夫 保育内容の充実	子どもの心身の成長発達にとって極めて重要な時期の保育・教育に携わっているということを十分に認識し、資質・専門性の向上に努めていく。
安全管理の徹底 感染症の予防	感染症における正しい知識の習得。様々な場面を想定した訓練を実施し、訓練後の評価・反省を安全管理（防犯）の強化に繋げていく。

自己点検・自己評価

令和5年度

幼保連携型認定こども園 愛媛星岡幼稚園

回答者 55名

Ⅰ 教育・保育計画・方針について

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
1	園の教育理念や、教育方針を理解している。	5 5			
2	園の教育方針に共感している。	5 5			
3	園の目指す幼児の姿を自分なりにイメージできる。	5 5			
4	指導計画は教育要領・教育課程・乳幼児の実態などをもとに考えて作成している。	5 5			
5	幼児が主体的に活動できるような環境構成をしている。	5 4	1		
6	季節、行事を通して、幼児の発達に即した経験ができるように、計画をたてている。	5 5			
7	乳幼児が安全で心地よく過ごすことができる環境を整えている。	5 4	1		

Ⅱ 保育の在り方・乳幼児への対応

8	一人ひとりの乳幼児をよく観察するようにこころがけている。	5 5			
9	子どもをよく理解し、一人ひとりの性格や、特性などに配慮しながら指導している。	5 5			
10	基本的な生活習慣や、生理現象に関しては、一人ひとりの乳幼児の状況に応じて対応している。	5 4	1		
11	乳幼児一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている。	5 5			
12	乳幼児のことについて、保育教諭間での話し合いを持ち情報を共有している。	5 3		2	

Ⅲ 保育教諭としての資質や能力・適正

13	保育教諭としての専門知識や技能を身につけている。	4 7	1	7	
14	乳幼児や保護者との対応には公平を欠かさないようにしている。	5 5			
15	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	5 5			
16	生活や遊びを通して、数・量の感覚が身につくよう工夫している。	5 4	1		

Ⅳ 保護者への対応

	評価項目	はい	いいえ	わからない	無回答
17	個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話・連絡帳などを使って伝えあっている。	5 5			

18	保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針にしたがっている。	55			
19	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長・副園長に連絡、報告、相談している。	55			
20	保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については容易に受けたり、断ったり、無視しないで園長や副園長、主幹保育教諭に報告や相談をしている。	55			
21	園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや、会話を心がけている。	55			

V 研修と研究

22	研修会や研究会に参加する際には、自分なりの目標をもって臨み、学習したものを報告書にまとめ提出している。	49		6	
23	自分の保育については、自己課題をもって計画と反省をおこなっている。	54	1		
24	研修に参加し、学習を通して、自身の保育に役立てている。	52	1	2	
25	絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	55			
26	アレルギー、自立の遅れなどが見られた場合、個々に応じた配慮や対応をおこなっている。	55			
27	趣味、人とのかわりなど、うるおいのある生活を心がけている。	54		1	

VI 食育・保健・環境

28	食事のマナーを知り、守って楽しく食事ができる環境作りを行っている。	55			
29	いろいろな食材に興味・関心を持ち、苦手な食べ物も食べられるように工夫している。	55			
30	園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している。	55			

VII 成果と課題

- ・ 子ども一人一人をよく観察し、色々な体験ができるよう心掛けた。
- ・ 自分の思いをうまく表に出せない幼児もいるので、集団の中で自分を出したり、安心して自分を出せる存在（友達や保育教諭）をもったりできるよう見守っている。配慮の必要な幼児には、本児にとって無理のないように園生活を送る中で集団での活動にも興味や意欲が持てるよう後押ししているところである。
- ・ クラス運営にあつたての課題と向き合い、今後も日々保育を考え努めていきたい。
- ・ コロナウイルスが5類へ移行したこともあり、また心機一転保育がマンネリにならないよう計画と実践に力を入れて職員間でアイデアを出しながら保育を行ってきた。コロナ禍で我慢の多い生活をしてきた子

ども達が様々なことを楽しんで生活できるよう工夫してきた。園児一人一人の表情、サインを見逃さず、必要な関わりをすること、安心して預けて頂く事を念頭において保育をしたいと思う。

- ・ 行事が多くある中で、皆で同じ目標に向かって頑張る姿が見られ、たくさんの成長が見られた。
- ・ 自分達ですべきことを考える時間を設けたり、話合いの場を設けることで、自立心も芽生えできたように感じる。これからも園児一人一人の良いところを引き出していけるよう関わっていきたい。
- ・ 初めての園生活、初めてのトイレトレーニング・・・様子を見守りながら保護者間で情報を共有し進めた。励ましながら根気強く見守ったことでスムーズにパンツに移行でき、本児の自信となった。
- ・ 食に興味のない幼児がおり、関わりにおいて試行錯誤の毎日だった。個々にあった関わりができるよう気を付けていきたい。
- ・ 配慮の必要な幼児に合わせた援助方法をしっかり考え、丁寧な関わりを行ってきた。根気強く声を掛けたり援助を行ってきたことで様々な面で大きな成長が見られた。家庭、療育機関職員としっかり連携を図り、個々に合わせた保育を行っていききたい。
- ・ 個々に応じた関わりを行いながらクラス全体をよく見て保育を行うよう心掛けた。進級に向けて子ども達の気持ちづくりを行い、期待が高まるようにしたい。
- ・ 個々にあった保育ができるよう、子どもの様子を見守り、保護者と連絡を取りあうことができた。
- ・ 困ったり、悩んだりしたこと職員間で相談の上、協力が得られたと思う。子どもの変化にすぐに対応できるよう、日頃から知識を増やせるよう努力したい。
- ・ 保護者対応について、気持ちを考慮し、伝え方を工夫すべきだと感じた。日常の挨拶や会話で情報を共有し、コミュニケーションを図りながら信頼関係をしっかり築いていきたい。
- ・ 子ども達と一緒に一つ一つの活動を通して、分かりやすい言葉の伝え方、気付きの声かけ等を心掛けた。子どもが自分自身で考える経験を保育の中でたくさん取り入れていきたいと思い、今後
- ・ 声掛けや指導方法も学んでいきたい。
- ・ 四国大会を通して他園の先生方の話を聞いたり、グループ協議での話合い等からの学びはとても多かった。今後の保育にも活かしていきたい。その為にも日頃の気付き、疑問等保育教諭と共有し合い、分からないことは質問するなどしてより実りのある保育にしていきたい。
- ・ 対面研修での学びは大きかった。園の規模や環境も違うので、出来ることは少しずつ実践に結び付けていきたい。
- ・ 保護者の考えに寄り添った関わりが大切だと感じた。子どもの様子の共有や必要な保護者支援を考えて行なうようにした。自分の考えだけでは不足と感じる部分もあるので、広い視野をもった考え方を心掛け、他からの意見を問入れられるよう引き続き相談を大切にしたい。
- ・ 怪我や病気もなく無事に終わり安心している。どの活動にも積極的に子ども達が取り組んでくれた。伝えるべき事は丁寧に順を追って伝え、成長を促していきたい。
- ・ 様々な行事にクラスの友達だけでなく他クラスの友達や他の保育教諭と一緒に練習を頑張り、互いに意欲を高め合うことができた。今後も皆で子ども達のことを見守っていききたいと思う。
- ・ 低学年を受け持ったので、トイレトレーニングや言葉での伝えあいなど基本的な生活習慣を身に付ける為の保育を学ぶことができた。保護者と話す際の言葉づかいやノートの記入の仕方等学びが多かった。
- ・ 園児の発達段階への理解を深めながら個々にあった関わりを行ってきた。食事、排泄、衣服の着脱等自分の身の回りの事が自分の力で出来るよう指導をおこなった。難しい部分は分かりやすい言葉で伝えたり、一緒に手を添えて行なっていくようにした。
- ・ 子どもの接し方には注意をしているものの、気持ちを十分汲み取れない時があり反省すべき点である。
- ・ 様々な学年、クラスの園児と関わるため、一人でも多くの子ども達の内面を知り、安心感を持って頼れる

存在になれるよう努めた。クラスサポートにおいては、状況把握に努め、担任の保育教諭に声をかけ、保育がスムーズに行えるよう動いた。こまめな報告・連絡・相談を行い、協力してサポートに努めたい。

- ・ 自ら積極的に行動し、情報の漏れなどないよう常に心掛けている。
 - ・ 長期休みの預かり保育は、事前の準備等これまでの経験もあり段取りよく、効率よく子どもにも分かりやすい受入れができるようになってきていると思う。
 - ・ 職員間の連携を常に意識して、勝手な判断、憶測で動かないように心掛けた。子どもの様子を常に観察し、怪我や体調面、子ども同士の関わりにも注目して触れ合うよう努めた。
 - ・ 子ども達も個々のペースがあるので、保育教諭も少し時間をかけて待つことが大切であり、次に繋がっていくと感じている。
 - ・ 様々な行事等を通して子ども達のたくさんの成長を感じとることができた。これからも連携を取りながらよく考えて、子ども第一で行動していきたい。
 - ・ バスの中の環境を整え、乗車等の援助補助を行った。さらに保育教諭間でのコミュニケーションを増やし、情報共有を行っていききたい。
 - ・ バスの中での過ごし方等見守りながら声掛けすることを心掛けている。全体に話す声の大きさ、個々に話す声の大きさやスピード等にも気を付けていきたい。
 - ・ 子どもが健やかに成長できるようにしていきたい。保護者、子どもが安心して迎えに来て、降園できることを大切に保育している。
 - ・ 子どもが心身ともに健康で「今日も楽しかった。」と思ってもらえる保育を心掛けている。
 - ・ 園児の対応等、難しく感じることもあるが、職員間で話し合い、同じ方向を向いて保育できるよう連携をはかっている。子どもに対しての理解を深めていきたい。
-
- ・ 1歳から3歳までのクラスは一人一人の発達にも個人差があるのでその事を頭の中に入れて丁寧に子どもに対応してきた。イヤイヤ期真っ最中の子ども達だったが保育教諭間で話し合いを持ち対応できたことは本当によかった。
 - ・ 今年の1歳児は月齢が高く、4月から落ち着いていた。クラス担任間で、子どもが興味を持ち楽しむ中で友達との関わりがもてるよう、よく話し合いその時々合ったクラス運営が出来たと思う。
 - ・ 子どもの月齢や取り巻く家庭環境により、全く違う雰囲気や育ちがあることを感じ、様子を観察しながらその時に応じた保育を実践した。
 - ・ 子ども達はどんどん言葉は増えて、トイレトレーニングではトイレに進んで行き、次々とパンツに移行したり、何にでも興味をもって取り組み、一人一人すごく成長を感じることができている。
 - ・ コロナが5類になり、人が集まることも増え、様々な感染症が流行しているので、これからも感染症対策をしっかり行い子ども達の体調の変化にも早く気付けるよう心掛けたいと思う。
 - ・ 今年度、救命講習会に参加し、実技講習を行ったり最新の知識を深めることができ、とても為になった。今後も日頃からの訓練を大切にまた子ども達が安全に園生活を過ごしていけるよう保育を行っていききたい。遊びや生活の中で、子ども達自身が豊かな経験ができるよう保育を行っていききたい。
 - ・ 些細な事でも職員間で必ず話し合い、一人では解決しないようコミュニケーションを取りながらより良い保育ができるよう努めていきたい。又他の職員の良いところなどを取り入れながら、常に向上心を持ち、自分の保育に役立てていけるようにしていきたい。
 - ・ 子ども一人ひとりに応じた保育教諭の関わり、子どもの主体性を尊重した保育の展開をしていきたい。
 - ・ 職員が連携して子ども達を共に育てていくという意識づくりをしていく。
 - ・ 保護者と連絡ノートや登園時は、園や家庭での話しを伝え合ったりしたが、少し伝えきれなかったのではな

いかと思うのでしっかりと連絡を取りあいながら園児の成長を共に喜び合っていきたいと思う。